

内 容

- 1. 創立 59 年目 腐食と闘う 樹脂ライニング工業会
- 2. 日本の重防食技術の早期確立
- 3. 防食施工計画士養成コースの推進
- 4. 事務局だより ― 業務報告



PLASTICS LINING ASSOCIATION

一般社団法人
樹脂ライニング工業会会報

2025 年 1 月 1 日(水曜日)

第 66 号

発行元：一般社団法人樹脂ライニング工業会 事務局

〒532-0011 大阪市淀川区西中島 6-2-3 テサンマンション第七新大阪 901 号

創立 59 年目 一般社団法人
腐食と闘う 樹脂ライニング工業会

謹賀新年

～ 2025 年 新年にあたって ～

防食ライニング国家検定・防食施工計画士推進・プラント重防食技術の早期確立

一般社団法人
樹脂ライニング工業会
会 長 野崎 雅明
副 会 長 藤永 忠利
理 事 兼 特別顧問 田邊 弘往

―国家検定―

2023 年度後期の
内容は第 4 頁の
左欄を参照

2024 年度
防食施工計画士
養成コース

一般社団法人 樹脂ライニング工業会
5 編 7 冊 既刊 4 冊 既刊 3 冊 既刊 2 冊 既刊 1 冊

(写真 1)



(写真 2)

(写真 1)：

第 16 回の防食施工計画士
養成コースのテキスト(表紙)

(写真 2)：

同上養成コースの
副読本「樹脂ライニング
皮膜の劣化診断指針」
(全 146 頁, 2021 年
第 3 版)
本書は皮膜の劣化の
種類や事例等がまとめ
られており、現場で非常
に有用なハンドブックです。
英語解説版も頒布中。
第 3 頁の表 4 下段ご参照。

新春研究会を開催します

〔題名〕

事業売上テーマ探求・各種設備保全活動
(第 15 回)

〔主旨〕当工業会は今までに大阪・東京で計 14
回研究会を実施し、いずれも好評を得ておりま
す。本年も一連の講演会を行います。今回のテー
マは、最近プラスチック材料が建築分野におい
て、より多く利用される傾向にあることから、これ
を中心とした講演内容を企画中です。
1/24(金)会場を東京科学大(大岡山)S1-215
会議室のみに統一し ZOOM 併用で計画。
詳細は別途資料を配布。

(写真 3)は

例年開催している
新春研究会の資料(表紙)

本研究会は旬なテーマを
一早く取り上げ、充実した
内容となっております。

〔問合せ先〕

当工業会事務局
TEL:06-6885-0333
FAX:06-6885-0777



(写真 3)

1. 今年の展望

新年おめでとうございます

―昨年 5 月末新型コロナウイルス対策が 5 種に軽減となり、中止となった行事等が少しず
つ緩和され、感染防止対策をとりながら再開されるようになりました。

当工業会も各行事について、ZOOM 併用参加により活動を継続し、当工業会の活動を防
食分野業界にアピールできるよう努力してまいります。それとともに会員殿の事業発展をお祈
りいたします。

2. 国家検定制度 23 年目を目指して

防食ライニングの技能検定は、関係官庁・関連企業のご指導・ご協力により 23 年目となり
ます。これは、当工業会が以前自主的に「防食品質の向上」を目的に「技能者資格教育」を
5 年間行っていたものを、国家検定制度に格上げして頂いたもので、当工業会として一層力
を入れさせていただき所存であります(関連記事:第 2 頁下欄・第 4 頁左欄参照)。

3. 防食施工計画士養成コース(17 回目)の推進

(公社)日本プラントメンテナンス協会殿と協力、平成 20 年 10 月にその第 1 回をスタート、
昨年 16 回目迄に累計 213 名が修了され活躍しておられます。過去数年の計画準備期間を
経て、ようやく日本で初の発注者と受注者が一体となってプラントメンテナンスを考え、安全・
安心なプラント運転をして社会に役立てようという精神であり、本年開催の 17 回目(7 月
中旬 WEB 併用講習)においても、一層充実した内容となっております。

本養成コースで使用されている副読本「樹脂ライニング皮膜の劣化診断指針」(写真 2)は
好評を得ており、英語版も頒布しております。海外での業務にお役に立てば幸いです。

4. プラント重防食技術の早期確立

高齢化により、ベテラン専門技術者が減少しています。日本の基幹産業を支える社会資
産の健全性維持は国家の急務であります。プラント重防食技術を早期強化し、責任ある人材
を育て、支えていく必要があります。このため、当工業会では KHK(危険物保安技術協会)
をはじめ、発電所・上下水道・化学プラント等の防食に働く人材の育成、技術の開発に力を
入れます(関連記事:第 2 頁上欄参照)。

5. 今年の決意とお願い

当工業会は多方面のプラント・諸施設の防食工事を行う、日本
でもあまり類を見ない工業会です。防食材料や工法・用途の種類に
こだわらず広く結集し、会員皆様、防食関係者の声を大きくする
必要があります。皆様の樹脂ライニング工業会は理事・事務局全員
力を合わせて、ご期待に添う覚悟であります。当工業会の HP を
ご覧ください(URL: <http://www.pla.gr.jp>)。

皆様の声をお寄せください。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2024 年度役員

代表理事	野崎 雅明
副 会 長	藤永 忠利
理 事	大日向 昭
理 事	石川 隆行
理 事	岩本 盛男
理 事	田丸 孝治
理 事	小林 健一
理 事	豊田 守隆
理 事	田中 元
理 事	田邊 弘往
理 事	松野 英則
理 事	佐野 耕介
監 事	新倉 均
監 事	山内 良沢

（専門技術者・担当職員の育成と長期耐久性技術開発）

耐久性・工法委員会 委員長 野崎 雅明

1. KHK 殿との協力

KHK（危険物保安技術協会）殿に当工業会は防食技術について、38年間ご協力させて頂いております。内容は、屋外大型貯蔵タンクの内面防食であり、主に以下の2点です。

- (1) 技術者育成
- (2) 防食耐久性高度化*

ガラスフレイクコーティング施工後 33年経過したタンクの塗膜調査結果に基づいて、コーティング等の措置による開放周期延長を図ります。



KHK コーティング管理技術者講習会講師・野崎 雅明

2. 資格教育技術者育成—資格認定制度

KHK では、毎年講習会と試験による資格認定を実施しております。合格者は累計 3,838 名であり、全国でご活躍されています。2024年度は表 1 のとおり開催されております（写真 1 は講習風景）。

詳しくは HP (<http://www.khk-syoubou.or.jp/>) をご覧ください。

表 1 屋外貯蔵タンクコーティング管理技術者講習日程（2024 年度）

地区	受講区分	講習会・試験日
東京	初回	2024 年 12 月 3 日（火）～12 月 4 日（水）
	再講習	2024 年 12 月 5 日（木）～12 月 6 日（金） 2025 年 1 月 31 日（金）
大阪	初回	2025 年 1 月 22 日（水）～1 月 23 日（木）
	再講習	2025 年 1 月 24 日（金）

3. 重防食ライニング・エンジニアリング・アドバイス

腐食や高温などの厳しい環境ではプラント装置の劣化はかなり早く進みます。補修による操業停止を繰り返す、多くのロスが発生しているのが現状であります。運転条件を把握し、腐食しにくい材料の選択と工法の確立により、ライニングの寿命延長が図れるようなアドバイスが必要です。

4. 防食メンテナンスの強化とエンジニアリング技術体制の早期確立

近年、危険物施設に限らず、コンクリート構造物等の老朽化により、補修や補強工事によるメンテナンスの強化が講じられています。

当工業会は、（公社）日本プラントメンテナンス協会殿と連携して、防食耐久性点検に力を入れています。一方、顧客各位からの防食工事を会員に紹介し、その際エンジニアリングについてできるだけ協力し、その体制を確立していきたいと考えます。



写真 1 コーティング管理技術者講習風景

国家検定委員会 委員長 新倉 均

（2001 年～2023 年度までの 23 年間の実績）

表 2 強化プラスチック成形・国家検定の受験申請者数と合格者数の推移

年度	1 級				2 級				合格者数 合計
	申請者数	学科 合格者数	実技 合格者数	合格者数	申請者数	学科 合格者数	実技 合格者数	合格者数	
2001	113	83	98	86	7	5	7	5	91
2002	172	139	116	113	33	25	20	19	132
2003	215	164	150	153	24	20	21	20	173
2004	269	174	171	148	9	5	4	3	151
2005	208	144	124	125	15	12	8	8	133
2006	216	140	121	112	20	14	12	12	124
2007	169	113	119	120	22	14	17	13	133
2008	128	65	91	68	17	11	9	9	77
2009	116	76	62	69	8	5	5	5	74
2010	81	54	51	50	16	10	8	9	59
2011	127	90	90	86	31	18	20	16	102
2012	117	85	76	69	23	16	13	82	82
2013VE	23	22	22	22	0	0	0	0	22
2014VE	16	10	12	12	2	1	1	1	13
2015VE	22	16	11	11	3	2	2	2	13
2016VE	16	14	11	13	10	1	7	8	21
2017VE	18	16	11	11	5	3	2	2	13
2018 VE+EP	19	13	11	10	6	6	6	6	16
2019 VE+EP	17	4	8	8	0	0	0	0	8
2021 VE+EP	13	9	7	6	4	4	4	4	10
2023 VE	14	6	9	9	3	1	1	1	10
計	2,089	1,437	1,365	1,301	258	173	152	156	1,457

国家検定 2001 年～現在の結果、1 級 2 級合計累計（受験申請者数 2,330）

資料出所：厚生労働省関連、中央職業能力開発協会のご厚意による。

VE：ビニルエステル樹脂

EP：エポキシ樹脂



大日向 昭



新倉 均

樹脂ライニング工業会が管轄する国家検定委員会の委員長は大日向昭氏に代わり2024年より新倉均に引き継がれました。

1995 年、当工業会は自主検定をはじめ、これを基礎に 2001 年国家検定に格上げされ現在に至っています。表 2 のように 23 年間で合格者累計 1,457 名となりました。この技能検定は防食樹脂ライニング施工の基礎となるものです。当工業会は、国と協力して、本検定の拡充に努めます。

最近、受験者数が時々滞る傾向もあり、2022,2024 年度はコロナ影響も有り中止しましたが、隔年実施の 2025 年度は受験希望者がおられ、実施予定です。

「防食施工計画士養成コース」の推進

（（公社）日本プラントメンテナンス協会殿との共催）

施工管理士委員会（防食施工計画士）委員長 野崎 雅明



防食施工計画士・講師
平山 晃

プラントの「防食施工計画士養成コース」は（公社）日本プラントメンテナンス協会殿と当工業会との共催で 2008 年からスタートし、充実した講習内容で、16 回（15 年間）で計 213 名が修了され（表 3 参照、2020 年のみ延期、2021～2024 年（7 月実行）、各現場にてご活躍されています。

講習内容は、プラント保全管理のポイントとともに、防食施工、品質管理、劣化診断指針の要点について、代表的な事例を挙げて解説致します。

昨年実施の内容につきましては、表 4 を参照ください。

表 3 防食施工計画士養成コース実施状況

開催年	月日	場所	修了・認定者数	累計
2008	10/30, 10/31	大阪商工会館	10 名	10 名
2009	9/29, 9/30	大阪商工会館	9 名	19 名
2010	10/7, 10/8	大阪パークサイドホテル	11 名	30 名
2011	9/1, 9/2	東京品川 (社)日本プラントメンテナンス協会	10 名	40 名
2012	9/11, 9/12	東京芝公園 (公社)日本プラントメンテナンス協会	10 名	50 名
2013	9/4, 9/5	東京芝公園 (公社)日本プラントメンテナンス協会	14 名	64 名
2014	9/11, 9/12	東京芝公園 (公社)日本プラントメンテナンス協会	17 名	81 名
2015	9/10, 9/11	東京芝公園 (公社)日本プラントメンテナンス協会	14 名	95 名
2016	4/21, 4/22	東京芝公園 (公社)日本プラントメンテナンス協会	17 名	112 名
2017	5/21, 5/22	住友商事竹橋ビル (公社)日本プラントメンテナンス協会	15 名	127 名
2018	4/19, 4/20	神保町 SFⅢビル (公社)日本プラントメンテナンス協会	14 名	141 名
2019	4/10, 4/11	神保町 SFⅢビル (公社)日本プラントメンテナンス協会	15 名	156 名
2021	7/19, 7/20	神保町 SFⅢビル (公社)日本プラントメンテナンス協会	10 名	166 名
2022	7/19, 7/20	神保町 SFⅢビル (公社)日本プラントメンテナンス協会	18 名	184 名
2023	7/20, 7/21	神保町 SFⅢビル (公社)日本プラントメンテナンス協会	15 名	199 名
2024	7/18, 7/19	神保町 SFⅢビル (公社)日本プラントメンテナンス協会	14 名	213 名

表 4 防食施工計画士養成コース教育内容

第 1 日目	設備保全概論	<ul style="list-style-type: none"> 防食施工計画士の任務 設備保全の歴史 設備保全の目的 ロス・リスク低減の根源対策 計画保全体制 標準的な保全方式 保全実行体制 アウトソーシング管理 	日本プラントメンテナンス協会 緒方 次郎氏
	防食施工・検査計画	<ul style="list-style-type: none"> 腐食と防食の目的 設備保全と防食 計画保全と施工計画 防食施工計画のポイント 防食管理手順 	
第 2 日目	防食施工の種類と防食品質検査のポイント	<ul style="list-style-type: none"> 防食施工概説 防食施工の種類 防食施工の特性 原材料の選定 材料・工法の選定 母体・下地処理 	(一社) 樹脂ライニング工業会 野崎 雅明氏
	樹脂ライニング皮膜の劣化診断技術	<ul style="list-style-type: none"> 樹脂ライニング皮膜の劣化損傷概説 樹脂ライニング皮膜の劣化損傷診断の評価法 樹脂ライニング皮膜の劣化損傷診断の試験法 関連法規 	富士レジン工業(株) 平山 晃氏
	副読本として、「第 3 版・樹脂ライニング皮膜の劣化診断指針」を使用。 (第 1 頁左参照)		
修了試験			

機器検査による合理化と JIS 化推進

（超音波探傷法によるライニング材の剥離検出試験）

規格・基準委員会 委員長 及び

JIS 化主査 岩本 盛男



委員長及び JIS 化主査
岩本 盛男

当工業会では、「超音波探傷法によるライニング材の剥離検出試験基準」を 2016 年に発行しております。この基準書を基に JIS 規格化を進め、2019 年には「超音波探傷によるライニング材の剥離検出試験方法及び評価方法」(JISZ2357)が制定されました。この技術はご存知の通り、従来の「目視・打音」とは異なり、鋼管外面側からのライニング材剥離検出が可能となっております。

交換や補修の準備が可能となり、効率的な点検が可能になると思っております。

この技術を広く知って頂き、効果的な点検工事が実施されることを望んでおります。

機器のバラシ前や機器稼働中でもライニング材の剥離検出可能となります。

JIS 規格は 5 年毎に見直しを行っており、今年度、活用状況のヒアリングを行いました。特にコメント・意見もない為、2024 年度予定の規格の見直しについては、実施しない旨を日本規格協会殿に報告しております。色々な意見を取り入れて、使いやすい、便利な規格にしたいと思います。

今までの点検期間中の検査ではなく稼働中にも検査が可能となります。設備停止期間の短縮や事前の検査で剥離位置が明確になっているため、

また「既設コンクリート構造物の樹脂ライニング下地処理仕様(案)」(1994 年)の見直しを行い、正式な基準書として制定できるように進めております。





防食樹脂ライニング技能士 国家検定

- ▷ 実技試験
試験日:2024年1月13日(土) →実施済。
会場:東京都立多摩職業能力開発センター 府中校
人材育成プラザ
(前日1月12日(金)に同会場にて講習を実施)
- ▷ 学科試験
試験日:2024年1月28日(日)午後→実施済。
会場:東京都内/大学及び大阪府内大学
(詳細は第2頁下欄項目参照)

防食施工計画士養成コース

- ▷ 講義および試験
実施日:2024年7月18日(木),7月19日(金) →実施済
会場:神保町 SFビル
(詳細は第1頁右欄項目3参照)

研究会 (新春研究会)

2025年1月24日(金)13:10-17:00 ZOOM 併用実施予定。
(東京会場:東京科学大(旧東工大)大岡山 S-1 号 215 会議室)

講演プログラム	1. KHK 屋外貯蔵タンクコーティング管理概要紹介	野崎 雅明(当工業会 会長)
	2. エポキシ樹脂の防食および有機酸の浸入評価	久保内 昌敏(東京科学大)
	3. 高耐久性塗装系の評価と課題 (仮題)	田邊 弘住(当工業会特別顧問)
	4. バイオマス由来原料のポリエステル樹脂の紹介	伊藤 直久(三菱ガス化学株式会社)
	5. コンクリート腐食メカ及び防食 (英文併記)	神沢 泰弘(当工業会事務局)
	6. 2024年度工業会活動報告(仮題)	佐野 耕介(木村化工機株式会社)
	その他、弊工業会劣化診断等文書紹介	

工業会ご貢献者表彰者紹介

2024年11月14日以降、下記の3件(当工業会)国家検定・強化プラスチック成形ご貢献者に対し下記の表彰状が東京都、中央・大阪各職業能力協会から授与された。

- (1) 新倉首席検定員(検定員としての長年の貢献に対し、東京都より表彰)



(株)新倉技研
新倉首席検定員



表彰式の様子

- (2) 野崎会長(PLAの長年の貢献に対して中央職能より表彰)



野崎会長



表彰状

- (3) 山上個人会員(令和5年度後期の成績優秀者として大阪職能より表彰)



山上個人会員
大阪府中央公会堂
にて表彰

新理事の紹介



田邊新理事
兼特別顧問



松野新理事
(大日本塗料)

2024 年度定期総会開催

工業会は2024年度で創立して第59期を迎えました。爾来、嘗々と創立の精神を「ミッション」として掲げ、会員全員で力を合わせ樹脂ライニングの技術力と市場を強化してきました。総会はその結集の場であり、今年も「総会議事録」をもとに、各委員会から多くの報告・審議が行われ、以下の議案が承認されました。

- 第1号議案:「令和5年度総事業および委員会活動報告」
- 第2号議案:「会計報告」
- 第3号議案:「令和6年度新体制と事業計画・予算案」

今回の総会では、特にZOOM活用による各委員会活動報告や今後の国家検定協力体制検討、化学プラント熱可塑性シートライニング紹介の貴重な講義があり、実行計画案も承認されました。

開催日時:2024年7月12日(金)13:00~16:00

開催場所:NLC 新大阪 8号館 9F 会議室



令和6年度総会風景

強化プラスチック協会・CONEX-2024 講演

2024年10月、(一社)強化プラスチック協会主催 CON-EX 2024へ当工業会 PR の為、佐野理事(藤永副会長及び他3名)が講演(題名「樹脂ライニング工業会活動報告(18)」)



佐野理事
(CON-EX2024
にて講演)

[情報] AMPP および ISO 等国际規格のニュース

防食技術開発・教育分野で世界をリードする団体組織 AMPP が NACE と SSPC の統合によりスタートして丁度3年が経過しました。昨年6月に塗料塗装分野の ISO 会議が米国 Houston にある AMPP の本拠地にある AMPP・Carrier Development Center で開催された。世界に5支部をもち会員35000名から構成されていて、その規模にふさわしい充実した施設であることを知ることができました。AMPP が主催する防食に関する、例えば防食の基礎、防食塗装、電気防食などに関する数十の資格研修会、セミナーが毎年開催されていて、腐食防食教育に貢献しています。もう一つ重要なことは AMPP 規格の制定活動があります。滞在中 AMPP 規格部門の Shari Gross 部長に聞く機会がありました。それによると ISO 国際規格は比較的基礎的な適用内容に重点があるのに対して、AMPP 規格はより具体的な、応用分野をより多く対象にしていて棲み分けをしているとのことでした。日本は東アジア太平洋地域の支部(EAPA)に属して活動をしており、令和7年に AMPP・EAPA 防食会議が日本で開催される予定です。



田邊理事 (AMPP・NACE フェロー)



AMPPCDC と ISO 会議風景

創立 60 周年記念誌編纂準備

1年後には創立60周年を迎えます。過去9年間の記録を収集中ですが、2年以内に10年間の業績まとめを編集する体制作りにご参画、御協力をお願い致します。理事会で審議し実行計画を作成していく手順で進めます。